

「新型コロナウイルス対策 医療系議員団本部」を設立

党本部に「新型コロナウイルス対策医療系議員団本部」が設置されました。同本部には医師出身者を中心に、歯科医師や看護師、薬剤師、理学療法士、診療放射線技師の資格を持つ国会議員26人が所属。専門的な視点から、医療崩壊の防止、感染拡大終息に向けた出口戦略への提言などを行っていきます。



党本部に設置された「新型コロナウイルス対策医療系議員団本部」。
看板を掛ける二階俊博幹事長と医療系議員団

医療系国会議員が集結 新型コロナウイルスの早期終息へ

新型コロナウイルスが世界中を席巻し、経済が悪化。そして、かけがえのない国民の命が危機にさらされています。3月に党の医療系国会議員が集まって発足した「新型コロナウイルス感染症対策医療系議員アドバイザリーボード[※]」は、10回以上の勉強会や議論を重ね、二階俊博幹事長に3回にわたる提言申し入れを行いました。

それを踏まえて4月16日、党本部に「新型コロナウイルス対策医療系議員団本部」(以下、議員団本部)を設置。入り口に

看板が掛けられました。これに駆け付けた二階幹事長は「医師の国会議員の皆さんが協力し合い、新型コロナウイルス対策を行っていることに対し、大変心強く思っています。今こそ、その実力を発揮していただく格好の機会。先頭に立って大いに頑張ってください。期待しています」とエールを送りました。

大隈和英議員団本部事務局長の司会で行われた記者会見では、初めに富岡勉議員団本部長があいさつ。「新型コロナウイルス対策は、党本部や政府でも懸命に

※新型コロナウイルス対策医療系議員団本部の前身



令和2(2020)年4月15日、「新型コロナウイルス対策医療系議員団本部 初会合」



写真左から、新型コロナウイルス対策医療系議員団本部の木村弥生オブザーバー、高階恵美子副本部長、富岡 勉本部長、国光あやの幹事、とかしきなおみ副本部長、本田顕子幹事



令和2年4月16日、党本部で開かれた記者会見を終えて。写真左から、新型コロナウイルス対策医療系議員団本部の安藤高夫事務局次長、三ッ林裕巳副幹事長、古川俊治副本部長、富岡 勉本部長、今枝宗一郎幹事長、大隈和英事務局長



令和2年5月12日、加藤勝信厚生労働大臣に要望と提言を手交



大隈和英新型コロナウイルス対策医療系議員団本部事務局長



今枝宗一郎新型コロナウイルス対策医療系議員団本部幹事長



富岡 勉新型コロナウイルス対策医療系議員団本部本部長

取り組んでいます。しかしながら、感染拡大の事態はフェーズ(局面)を変えました。そこで、これまで議員として、医師として活動してきたわれわれが二階幹事長からの要請を受け、議員団本部設立の運びとなりました。医療現場と政治の間をつなぐ役割を果たし、新型コロナウイルスの抑え込み、早期終息に向けて取り組んでまいります」と力強く述べました。

続いて、いまだそうじゅう今枝宗一郎議員団本部幹事長が、設立の目的について言及。「主に二つのミッションがあります。一つは医療崩壊を防ぐこと。これは国民の命を守るために絶対に必要な方策です。もう一つは出口戦略。つまり、どのように事態を収束させるかということです。戦略を見直して議論を重ね、国民の皆さまの不安解消に努めなければなりません」と説明しました。

ミッション実現のために 専門知識を生かした活動を

議員団本部では、二つのミッションを実現するために、具体的な活動内容として、①地域医療体制支援・キャラバン。②情報収

集。③戦略・政策。④リスクコミュニケーションの四つを挙げています。

①は、例えば層別化分類の推進

です。軽症、中等症、重症、重篤の患者では、それぞれ提供すべき医療が異なります。患者の症状に応じ、それぞれに適した別の施設で診療や看護をする体制が必要で、また、感染が疑われる場合のPCR検査について、今までは保健所を通して行われてきました。しかし、医師が検査を勧めたにもかかわらず、実施されなかった事例も発生。そこで、必要な検査をすべて実施できるように、公設の感染症外来設置を目指しています。

さらに、47都道府県連のネットワークを活用して、オンラインなどで行政や地元の医療界などと連携を取っていきます。各地域の医療体制強化を支援することで、医療崩壊防止に全力を挙げます。

②について、今、国内外で毎日のように症例報告やエビデンス（臨床に基づく科学的根拠）、学術論文が発表されています。非常に更新スピードが速く、かつ情報量もかなり多い状況です。そこで、議員団本部でもそういった情報を積極的に収集し、整理していきます。産官学で連携しながら、オールジャンルの体制を構築。その知見を基に、検査キットや治療方法、治療薬、ワクチンへの対応を加速しなければなりません。情報収集とともに、研究開発推進を図っていきます。

③は、戦略・政策を提言するにとどまらず、それを実現するために自ら行動していくことです。医療現場をよく知る国会議員として、現場と政治をつないでいきます。例えば、今、現場では医療資材・機材が不足しています。フェースシールドやガウンなどの防護具も含め、早急な増産促進に加え、分配システムの見直しや発注・受注作業の効率化を進めているところです。

④は、国民の不安を解消するための広報や相談体制構築です。国民が安心できるように、自民党のWebサイトやSNSなどを通じ、医療の専門家として、国会議員として正確な情報発信をしていくことにしています。

さらに、自粛と経済補償だけではなく、その先どのように事態を収束させるのかという見通しを示すことが安心につながります。そのためには抗体検査を早期に実施して、地域でどのくらい抗体を持った人がいるのかを把握することが重要だと思っています。

記者団との質疑応答の場で大隈議員団本部事務局長は「医療の現場を知り尽くしたメンバーです。私たちがやるべきことは、現場の声を党や政府に伝え、改善していくこと。科学的見地、医学的根拠をもって、政策を補強していきます。国民の命を守り、新型コロナウイルス感染症の早期終息を目指して頑張っています」と決意を示しました。



令和2年4月16日、記者会見後に開催された「新型コロナウイルス対策医療系議員団本部 会議」